

特集

第14回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム
プログラム

日時：平成19年10月5日（金）・6日（土）

会場：サンポートホール高松

〒760-0019 高松市サンポート 2-1

TEL：087-825-5000

FAX：087-825-5040

E-mail：info@sunport-hall.jp

会長：池田和真（岡山大学病院輸血部）

事務局：〒700-8558 岡山市鹿田町 2-5-1

岡山大学病院輸血部

TEL：086-235-7768

FAX：086-235-6982

準備室：〒701-0114 倉敷市松島 1075-3

（株）メッド 担当：小川

TEL：086-463-5344

FAX：086-463-5345

E-mail：yuketsu@med-group.co.jp

<http://www.med-gakkai.com/sjbp31/kanrengakkai.html>

第 14 回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウムの開催にあたって

岡山大学病院輸血部 池田和真

第 14 回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウムを開催させていただくこととなりました。輸血学会から輸血・細胞治療学会になって 2 回目の秋季シンポジウムですが、昨年に引き続き、日本血液事業学会と全国大学病院輸血部会議にあわせて開催する予定です。

昨年まで大学病院輸血部会議との合同開催であった合同シンポジウムは、血液事業学会を含む三者合同シンポジウムとし、全国で進められている「血液センターの業務の集約とその対応」をテーマとさせていただきました。輸血・細胞治療学会の秋季シンポジウムとしては、「輸血医療の安全管理」と「ヘモビジュランス」を採りあげさせていただきました。輸血医療の安全性は、病院機能評価、I&A を含めた多くの取り組みによってずいぶん向上していると考えられますが、「輸血医療の安全管理」では、現時点における問題点の解析とさらなる普及に向けて討議をしていただければと考えています。「ヘモビジュランス」では、輸血・細胞治療学会や厚生労働省の班研究によって収集された輸血による副作用・合併症についてご報告いただく予定です。

昨年の秋季シンポジウムの「血液型不適合臓器移植を安全に行う戦略」では肝臓、腎臓、造血幹細胞の移植が採りあげられましたが、特別講演では、岡山大学腫瘍・胸部外科の伊達洋至教授に「造血幹細胞移植後の呼吸不全に対する肺移植」についてお話いただくこととしました。ランチョンセミナーでは、兵庫医科大学の甲斐俊朗先生に「臍帯血移植」について、慶應大学の三浦左千夫先生に「シャーガス病」についてお話しいたいただき、サテライトセミナーでは米国赤十字社の Chief Medical Officer である Richard J. Benjamin 先生に「血小板製剤からの細菌の検出と血液製剤の病原体の不活化」についてお話しいたいただく予定です。

微力ながら、スタッフ一同で精一杯、準備に取り組んでおります。是非ともこの機会に高松へお越しいただき、シンポジウムに加えて、瀬戸内の自然と食を含めた文化も堪能していただくことを希望しております。

参加者へのお知らせとお願い

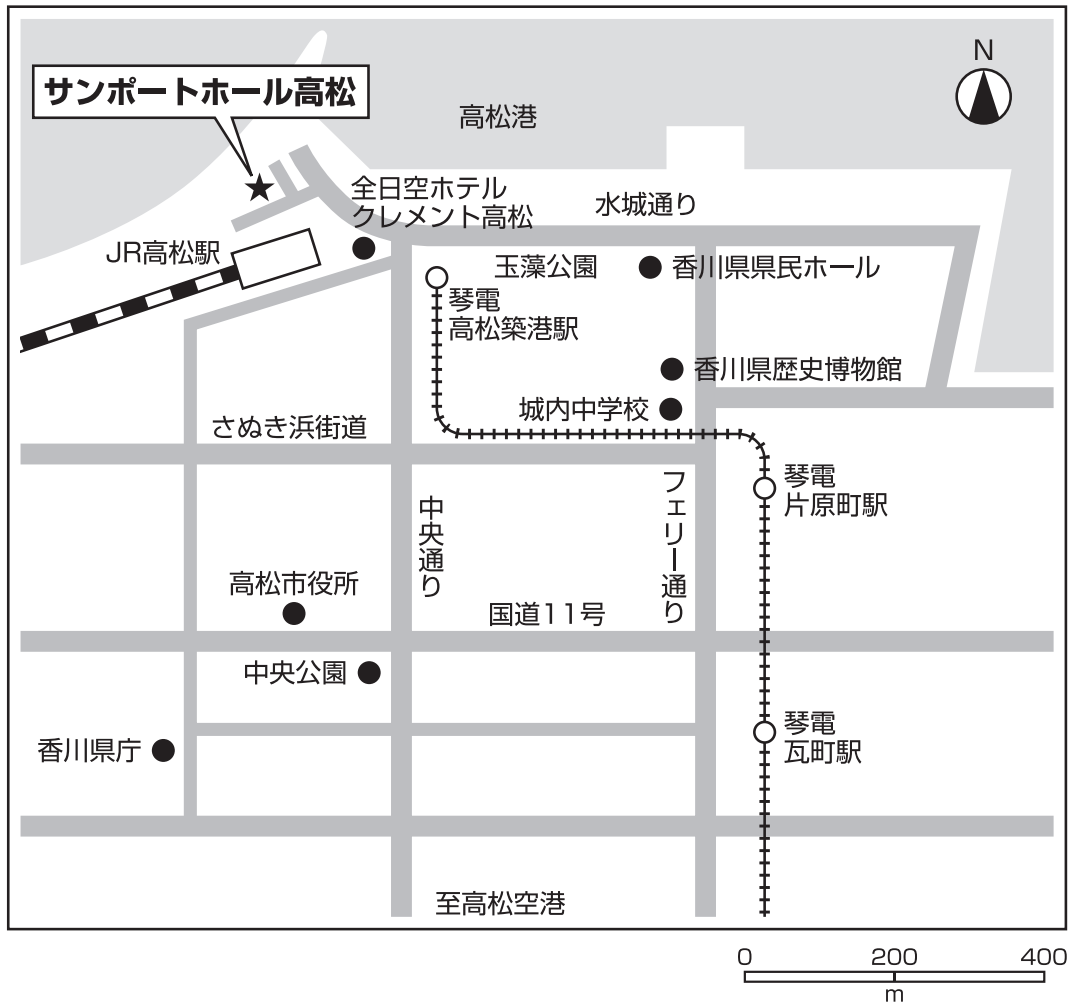
I. 参加者の方へ

1. 参加費：5,000円（当日受付にてお支払い下さい。）
2. 参加申し込みは、10月5日（金）は正午より、6日（土）は8時30分より大ホール会場前にて受付いたします。
3. 受付で名札（領収書兼用）とネームホルダーを受け取り、所属、氏名を記入後、二つ折りにしてネームホルダーにお入れください。入場されるときは、必ず名札を着用してください。なお、非会員の方でも参加費をお支払い頂ければ参加できます。また、この名札は日本輸血・細胞治療学会認定医登録更新ならびに認定輸血検査技師申請・登録更新の際の単位として認められておりますので、紛失・汚損等のないよう、大切に保管してください。なお、名札の再発行はいたしません。

II. 認定輸血検査技師更新のための講座参加の方へ

1. 参加費：更新のための講座のみ参加の場合、2,000円
なお、第14回秋季シンポジウムに参加される方は参加費5,000円に含まれます。
2. 参加申し込みは、10月5日（金）正午より、会場前で受付いたします。
3. 「更新のための講座」を受講後、会場出口にて、講座参加証明書をお渡しいたします。

会場および交通のご案内



JR高松駅より 徒歩3分
 琴電築港駅より 徒歩5分
 高松空港より 車で40分

- ・車でお越しの方は、近隣の有料駐車場（サンポート高松地下駐車場など）をご利用下さい。なお、当日駐車場は混雑が予想されますので、できるだけ公共の交通機関をご利用下さい。

第14回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム
プログラム

平成19年10月5日（金）

13:00～15:00 日本血液事業学会および全国大学病院輸血部会議との合同シンポジウム 3F 大ホール
「血液センターの業務の集約とその対応」

司会：田所 憲治（日本赤十字社血液事業本部）
押田真知子（大阪大学医学部附属病院輸血部）

1. 演題未定

武末 文男（厚生労働省医薬食品局血液対策課課長補佐）

2. 演題未定

赤塚 義英（文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室室長）

3-1. 検査・製剤業務の集約と事業広域化の基本的考え方

田口 博行（日本赤十字社血液事業本部）

3-2. 北海道における血液事業の一体化と集約

池田 久實（北海道赤十字血液センター）

3-3. 近畿管内における業務集約

谷 慶彦（大阪府赤十字血液センター）

4. 血液センターの業務集約化と輸血医療への影響について

押田真知子（大阪大学医学部附属病院輸血部）

5. 日本赤十字血液センターの統廃合による全国大学病院輸血部業務に対する影響について

藤井 康彦（山口大学医学部附属病院輸血部再生・細胞治療センター）

6. 市中病院から見た血液センターの業務集約化が与える適正な輸血療法への影響や対応

比留間 潔（東京都立駒込病院輸血・細胞治療科）

15:30～16:30 サテライトセミナー 6F かがわ国際会議場

「The American Red Cross Experience with Bacterial Culture of Platelets :

Test Failures Highlight the Need for Robust Pathogen Inactivation Systems」

司会：比留間 潔（東京都立駒込病院輸血・細胞治療科）

講師：Richard J. Benjamin（Chief Medical Officer American Red Cross Blood Service）

平成 19 年 10 月 6 日 (土)

8:55~9:00 開会挨拶 3F 大ホール

9:00~11:00 シンポジウム 1 3F 大ホール

輸血医療の安全管理

司会: 佐川 公矯 (久留米大学病院臨床検査部)

中島 和江 (大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部)

1. 医療安全教育における E ラーニングの活用

中島 和江 (大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部)

2. 大学病院における安全な輸血医療への取り組み

保科 英子 (岡山大学病院医療安全管理部)

3. 輸血医療の安全管理と輸血療法委員会の役割

佐川 公矯 (久留米大学病院臨床検査部)

4. 一般病院における安全な輸血医療への取り組み

尾崎 牧子 (松山赤十字病院検査部)

11:00~12:00 特別講演 3F 大ホール

骨髄移植後の呼吸不全に対する肺移植

司会: 小出 典男 (岡山大学機能再建・再生科学)

講師: 伊達 洋至 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腫瘍・胸部外科)

12:00~12:50 ランチョンセミナー 1 6F かがわ国際会議場

忍び寄るシャーガス病

司会: 高田 昇 (広島大学病院輸血部)

講師: 三浦左千夫 (慶應義塾大学医学部熱帯医学寄生虫学教室)

12:00~12:50 ランチョンセミナー 2 5F 第2小ホール

臍帯血バンクと臍帯血移植

司会: 上田 恭典 (倉敷中央病院血液内科)

講師: 甲斐 俊朗 (兵庫医科大学輸血部)

13:00~15:00 シンポジウム 2 3F 大ホール

ヘモビジランス

司会: 藤井 康彦 (山口大学医学部附属病院輸血部)

岡崎 仁 (日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所研究開発部)

1. ヘモビジランス—採血から輸血まで—

岡崎 仁 (日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所研究開発部)

2. 平成 18 年度輸血業務に関する総合的アンケート調査報告

下平 滋隆 (信州大学輸血部)

3. 特定施設における輸血副作用の全数調査

加藤 栄史 (愛知医科大学輸血部)

4. 輸血・細胞治療学会 ABO 型不適合輸血調査

藤井 康彦 (山口大学医学部附属病院輸血部)

15:00~15:05 閉会挨拶 3F 大ホール

認定輸血検査技師更新のための講座 3F 大ホール**平成 19 年 10 月 5 日 (金) 15:00~17:00**

「血漿分画製剤の適正使用に向けて」

司会：田中 朝志（東京医科大学八王子医療センター臨床病理科）

奥嶋 博美（東京労災病院検査科）

基調講演

アルブミン製剤の適正使用について

西口 修平（兵庫医科大学内科学肝胆膵科）

シンポジウム

1. 外科領域におけるアルブミン製剤の適正使用—その対策と考え方—
松崎 浩史（東京都赤十字血液センター献血二部）
2. 小児科における免疫グロブリン製剤と凝固因子製剤の使い方について
白幡 聡（産業医科大学小児科）
3. 血漿分画製剤適正使用のための薬剤師の役割
林 昌洋（虎の門病院薬剤部）
4. 輸血管理料取得に向けての問題点と課題
中桐 逸博（川崎医科大学附属病院輸血部）

平成 19 年度「認定輸血検査技師更新のための講座」開催のご案内

認定輸血検査技師制度協議会

第 14 回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム期間中に認定輸血検査技師制度更新予定者を対象とした「認定輸血検査技師更新のための講座」を開催致します。

記

1. 日 時 平成 19 年 10 月 5 日（金）15：00～17：00
2. 会 場 サンポートホール高松 3F 大ホール
〒760-0019 高松市サンポート 2-1 高松文化芸術財団
3. 参加費 日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウムに参加する場合は無料、この講座のみに参加の場合は、2,000 円が必要です。

4. 講 座 テーマ：「血漿分画製剤の適正使用に向けて」

基調講演

「アルブミン製剤の適正使用について」

兵庫医科大学内科学肝胆膵科教授 西口修平

シンポジウム

「外科領域におけるアルブミン製剤の適正使用」

東京都赤十字血液センター献血二部長 松崎浩史

「小児科における免疫グロブリン製剤と凝固因子製剤の使い方について」

産業医科大学小児科教授 白幡 聡

「血漿分画製剤適正使用のための薬剤師の役割」

虎の門病院薬剤部部長 林 昌洋

「輸血管管理料取得に向けての問題点と課題」

川崎医科大学附属病院輸血部主任 中桐逸博

※更新までの 5 年間に少なくとも 1 通以上の「認定輸血検査技師更新のための講座参加証明書」が必須となります。